



栗観協第 110号
令和元年 11月 25日

栗東市議会
議長 藤田 啓仁 様

要望書第 6 号

抄送

栗東市観光物産協会
会長 田中 義信



令和元年度 栗東市観光物産協会
今後の観光振興事業に向けた要望書提出について

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、栗東市の観光振興および栗東市観光物産協会事業に格段のご理解とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成30年の訪日外国人観光客は、3,191万人を超え7年連続で過去最多を更新しました。こうした中、栗東市におかれましては、平成28年3月策定の「栗東市総合戦略」において「観光事業の推進」を主要施策と位置付けられ、また、現在「栗東市観光振興ビジョン」を策定していただいており、交通の要衝としての潜在能力や緑豊かな自然環境、歴史・文化遺産などの地域資源の活用、交流人口拡大を図るべくさまざまな施策の実施に向けて検討されており、観光振興に注力いただいていることに対しまして、深く感謝する次第です。

このような状況を踏まえ、本会は、地域経済活性化と地域文化の発展に寄与する目的をもって、栗東観光案内所事業の受託、こんぜめぐりちゃんバスの運行、りつとう市民秋まつりの開催、旧和中散本舗の特別公開、たてば珈琲の販売などさまざまな観光振興事業を展開してまいりました。

今後も継続した観光まちづくりに向け、その役割を果たすべく、今般、「今後の観光振興事業に向けて」の要望を下記の通り提出させていただきますので、どうか趣旨ご理解の上、提案内容をお汲み取りいただき、今後ともなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本要望書については、栗東市長へも提出をさせていただいておりますこと、申し添えさせていただきます。

敬具

記

【資料】 令和元年 栗東市観光物産協会「今後の観光振興事業に向けて」… 1部

以上

令和元年度 栗東市観光物産協会 要望書

今後の観光振興事業に向けて

栗東市観光物産協会

令和元年 11月 25日

1. 観光推進体制の確立に向けて

日本政府は観光を地域創生の切り札として様々な施策を展開しており、その結果、訪日外国人観光客が7年連続で増加しております。栗東市におかれましても、現在、さらに観光を推し進めるべく「観光振興ビジョン」を策定していただいております。

当協会としましても、その一翼を担い地域経済の活性化と地域文化の発展に寄与するべく活動しておりますが、今後も継続し「観光まちづくり」を推し進める体制は必ずしも十分とは言えず、事務局機能の強化、安定した組織運営は必要不可欠と考えます。

1)持続可能な観光を実現するために

・事務局職員任用について

現在、事務局体制としては常勤嘱託職員2名と非常勤の臨時職員が2名、そこに窓口対応のパート職員が2名に市の再任用職員を合わせた7名で運営しておりますが、理事会としましては法人格を取得し継続して事業を展開していくには人的資源が明らかに不足していると認識しています。

栗東市の強みである森林をはじめとした豊かな自然環境や豊富な歴史的・文化的資産は適切に管理し、未来へと引き継いでいく必要があり、継続的に観光客が訪れ、地域の観光消費が拡大するには、情報を収集し分析しプランニング、実行、検証していく体制を構築する必要があります。

そこで、来年度以降の事務局体制および人員配置については、格段のご理解と引き続いての財政支援をお願い申し上げます。

2. 地域の活性化に向けて

本市には、固有の自然や歴史・文化、地域活動、特産品など数多くの地域資源を有しております、栗東市地域資源活用ビジョン（平成27年策定）において整理され、活用に向けた取り組みが示されています。「ひと・まち・環境 ともに育む健やか・にぎわい都市 栗東」の実現に向け、「金勝山周辺エリアの活用促進」および「歴史街道をいかしたまちづくりの連携・交流・充実」があげられております。あわせて、栗東市総合戦略においても「地域資源を活用したブランドづくりとシティプロモーションによるまちの魅力発信」や「観光事業の推進」があり、具体的取組事例として「馬を活かしたまちづくりの推進」などがあげられております。

こうした中、当協会は、こんぜめぐりちゃんバスの運行をはじめ、滋賀日産リーフの森でのりつとう市民秋まつり開催、旧和中散本舗の特別公開、たてば珈琲の販売、市内開催イベントへの協力など、金勝山周辺エリアの活性化および歴史街道をいかしたまちづくりに取り組んでおります。さらに、馬に親しむ日への出店や京都競馬場開催のレースにあわせた物産展の開催、市内育成牧場での乗馬体験の実施といった取り組みを行い、「馬を活かしたまちづくり」を推進しております。

しかし、いずれの事業も一定の成果を得られてはいるものの、継続して観光客を受け入れるためには、駐車場や案内看板などの環境整備が十分と言える状況ではなく改善が必要であり、まだまだ観光資源として十二分に活用しきれていないのが現状です。

1) 豊かな自然景観を魅せるために

・こんぜの里および金勝アルプス周辺の観光利用促進に向けて

第 26 回全国植樹祭会場跡地である滋賀日産リーフの森を会場とし「りっとう市民秋まつり」を開催して 3 年目となる本年は、滋賀県で 2 回目となる全国植樹祭を 2 年後に控え「全国植樹祭しが kick off イベント」と共に開催いたしました。天候にも恵まれ 4,100 名の方にご来場いただき本市の誇るべき自然、森林を体感してもらうことが出来ました。このイベントを通じて本市の魅力に気づき、再び本市を訪れていただける方が増加すれば、ただ単なるイベントとしてだけでなく情報発信としての付加価値があり開催の意義は非常に大きいといえます。

しかし、滋賀日産リーフの森の駐車区画は道の駅利用者と共に用で 29 台しかなく、認知度向上と共に需要は拡大しており年間を通して休日は当然ながら満車になることが多く、せっかくの機会を損失していると言わざるをえません。

そこで、こんぜの里道の駅りっとうや滋賀日産リーフの森への来訪者の機会損失を防ぎ、再来訪を促す意味でも、また、「健康しが」ツーリズムビジョンとも合致し健康増進を実践する機会の提供できる場として確保する意味からも、駐車区画の拡張や主要幹線道路からの誘導看板の設置、トイレの洋式化などの受入環境について、年次的な整備を提案いたします。

・横ヶ峰展望所付近への駐車スペース拡大

横ヶ峰展望所駐車場は、素晴らしい眺望の天狗岩や柏坂磨崖仏へのアクセスが容易なことから金勝アルプスハイキング拠点として、また市内およびびわ湖を含む県南部を一望できることから展望のために短時間駐車するなど、用途は様々です。現在、駐車区画は 8 台で認知度向上と共に需要は年々拡大しており、休日だけでなく平日でも駐車区画が不足し利用者の機会損失につながるケースが散見されております。

前項の金勝アルプス周辺の観光利用促進とあわせ、また、森林資源を有效地に活用するためにも、駐車区画の拡張について、年次的な簡易整備を昨年に引き続き提案いたします。

・森林サービス産業の創出に向けて

本市南部に位置する観音寺の保安林において事業を行っている「フォレストアドベンチャー・栗東」には県内のみならず近隣都市部から年間 1 万人を超える来場者があります。しかし、そのほとんどが日帰りで市内での滞在は限られた時間で観光消費額も僅かなものとなっています。滞在時間を延ばし観光消費額を増やすためには、フォレストアドベンチャーのみにとどまらない森林を活用した多様なプログラムの造成が必要です。

森林が有する多面的な価値を積極的に引き出したアクティビティや、森林空間が有する豊かさを活かした利活用のニーズは高まりを見せており、新たな森と人のかかわりを創り出す「森林サービス産業」の創出に向け、大人の里山保育や、ホーストレッキング、マウンテンバイクガイドツアーなどの事業を検討しております。多様な関連分野のニーズに合った高付加価値型の森林空間の総合利用を産業として成立させるための方策や、森林を活用して様々なニーズを具体化し対応するため格段のご理解と財政支援をお願い申し上げます。

2)文化のストーリーを紡ぐために

・街道観光向け観光拠点整備について

歴史観光が再び脚光を浴び歴史遺構が注目され、街道を旅する観光客が増加する中、旧東海道に面し梅ノ木立場として栄えた六地蔵の地にある旧和中散本舗付近に簡易水洗トイレ整備を昨年に引き続きお願い申し上げます。

歴史的資源を活用し観光拠点づくりを目指し、大角家および当協会主催事業として春秋に旧和中散本舗の特別公開を催しておりますが、現状、トイレは大角家自家用トイレに頼らざるを得ず混雑する場面もあり、観光客の観光地満足度に影響を与えることからも、さらなる誘客にはトイレ環境の整備は必要不可欠と言えます。

・認知度向上、魅力発信について

本格的な人口減少社会において、地域経済活性化のためには交流人口の拡大による観光消費の増加は必要不可欠であり、人口増加傾向が続く本市においても、将来を見据え取り組む必要性があります。交流人口を拡大し、観光をきっかけとし本市の魅力を内外へ広く浸透させるためは、情報の収集、発信の強化は、認知の壁を取り払い、本市を来訪しいただくきっかけを創出するためにも必要不可欠です。

昨年、滋賀県の補助事業として作成した観光ガイドブックの更新増刷をはじめ、SNSの普及に伴い外観のインパクトや絵になる光景への志向が高まっているのにあわせ、印象的な影響力のある画像・映像を発信し、鮮度の良い情報、注目度の高い画像により、栗東らしさを伝え認知度向上を図るために引き続きの財政支援をお願い申し上げます。